

月報

43号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 曦

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL (078) 734-5989

「京城」と「ソウル」

原田 環

ソウル行きをひかえて、韓国案内の本をながめていたら、その中の一冊、李御章責任編集「韓国」(セルネット出版、一九八八年)の五一項に、ソウルに関して述べた文で、別記のような個所があった。要するに、①「京城」という言葉は、一九一〇年以降の日本の支配下で用いられたものである。②一九四五年八月一五日以降はソウルと改称された。③ソウルに該当する漢字はない、の三点を強調している。④について、朝鮮史研究会編「入門 朝鮮の歴史」の二八項のコラム「京城」ということばでも言及されているが、これらはいずれも誤りである。「京城」という言葉は、日本の支配下で用いられたはじめたものではない。李朝の政府記録である「承政院日記」や「日省録」などを利用して人ならごく常識的なことだが、漢城の通称として「京城」ということばが李朝でごく一般的に用いられている。⑤もおかしい。八・一五以降もある期間、「京城」と言う言葉が用いられた。たとえば、かつての京城帝国大学は、八・一五では「帝国」の二文字をとって京城大学と改称した。青丘文庫にも、京城大学の名を記した刊行物が所蔵されていて、そのことを確認できる。たとえば、一九四九年に刊行された「朝鮮史概説」がそうで、奥付によれば、著者は京城大学朝鮮史研究会となっている。ちなみに、このころは南でも韓国史といわずに朝鮮史といっていたのは注目に値する。⑥もおかしい。「京城」という言葉は中国から伝来したもので、中国では清にいたるまで、都の通称として用いられ、文獻にひんばんに出てくる。「京城」とは、城壁でかこまれた「京(みやこ)」という意味である。「京城」という言葉は朝鮮ではそのまま用いられ、日本では「城」の文字が脱落して「京」だけが使われた。これは、日本では海が城壁の役目をしたために、本格的

な城壁をめぐらした首都が発達しなかったためである。ところで、日本語では、「京」の訓は「みやこ」、音は「キョウ」である。朝鮮語の「ソウル」は、日本語でいう「京」の訓のみやこに該当するもので、ちなみに、音は「キョソンソン」である。したがって「ソウル」に該当する漢字がないというのは誤りである。「ソウル」に該当する漢字は「京城」である。ただし「京城」を李朝では「ソウル」「キョソンソン」と呼ぶことはあっても、日本流に「ケイジョウ」と呼ぶことはなかった。「京城」を「ケイジョウ」と呼ぶことが、日本の朝鮮支配の産物であって、「京城」という言葉自体は、朝鮮の歴史の中に日本より以前からくりこまれていたのである。「京城」という言葉の存在の有無と「京城」を「ケイジョウ」と呼んだことは分けて考える必要がある。いま、朝鮮の研究は、これまでの警察主義の時代を終えて、実事求是の時代に入ろうとしている。私も、この目と耳と足をつかって、朝鮮の歴史をしっかり確認していきたいと思っている。

一九一〇年、韓国は日本に併合され、漢陽(京城)は「京城」に改称されたが、一九四五年八月一五、第二次世界大戦の終結とともに、韓国は独立、現在のソウルに改められた。

新しい大韓民国の首都となった「ソウル」とは、都という意味の固有語で、漢字では表記できない。

一九八九年二月十二日

兵庫県下の地下工場

——朝鮮人強制労働の現場を訪ねて——

鄭 鴻 永

太平洋戦争の末期、米軍の戦略爆撃（空襲）の激化と本土上陸作戦にそなえて、日本の各地に地下トンネルが数多く掘られた。その多くは、朝鮮人の過酷な労働によって建設された。つまり、日本軍の断末魔的な「本土決戦」準備のために、「穴掘り（ditch digger）」として朝鮮人の強制連行・強制労働が、日本において激的かつ広汎に生じたのである。

その地下トンネルは、使用目的によって、①大本営（長野県松代）、②軍用地下施設、③地下軍需工場、④防空壕、の四つに大別されるが、そのなかでも大規模なものは、①の大本営を除けば、ほとんどが航空機関係の地下工場であった。

その建設工事に従事させられた労働者は、『米国戦略爆撃調査団報告書（太平洋戦争）』には、「三万五千人と四万人の中国人及び朝鮮人労働者が動員された」とされているが、実数は大幅に上回るものと思われる。その根拠として、これまで現地調査、証言、新聞記事、社史等によって一定の調査が進んでいる一二ヶ所のトンネルについてだけ集計しても、朝鮮人労働者数の合計が三六、九〇〇人になるからである。

兵庫県下の川西航空機（西宮市甲陽園、加西市北条など）、

佐友ブローラ（有馬郡広野村、現在の三田市）の地下トンネルにつき、兵庫朝鮮関係研究会、戦争の記録を残す西宮市民の会、姫路朝鮮問題研究会などのグループによる現地調査の経緯を説明報告し、甲陽園での「朝鮮國獨立」の文字を発見したときの感動を述べた。なお、同じ場所の「緑の春」の文字の意味について、それは戦争末期における朝鮮民衆の抵抗手段のひとつであった「流言蜚語」の“光復＝解放＝獨立”を意味する符丁ではなかったのだろうかという推測が参加者よりなされた。

また、全国的な地下トンネル調査の状況につき、「太平洋戦争中に建設された地下工場の調査状況」（鄭鴻永作成、一九八八・一一・二〇現在）の表によって、これまで判明している一二ヶ所について整理報告した。そのなかで浮かび上がってきた調査上の問題点、各地の研究グループ間の交流・情報交換、文献調査のレベル等をかいつまんで報告した。

現在、当時の体験者が高齢化し、だんだんと証言が得にくくなっていること、開発によってどんどんトンネルが破壊されつつあることから、聞き取り調査とトンネル跡の保存が緊急の課題となっている。

この研究テーマは、日本の植民地支配責任・戦争責任を具体的に明らかにするとともに、一世同胞の苦難の歴史をたどり、その闘いの継譜を私たちが受け継ぐことだと思っている。また、土木人夫（coolie）→坑夫（miner）→穴掘り（ditch digger）という強制連行・強制労働の形態変化についても明らかにしたい。

平成元年(1989年)2月20日 月曜日

宗教の国策利用

日朝関係から一冊の本に

神戸で出版記念パーティー

韓国・朝鮮に関する書籍や、須磨区の「青丘文庫」を運営する韓哲曦(ハン・ソッキ)

韓さんは熱心なクリスチャ

三百円。未来社発行。



出版記念パーティーに出席した青丘文庫の韓さん＝神戸市中央区の神戸YMCAで



さん云々が、近代からの日朝関係を宗教の面からとらえた歴史書「日本の朝鮮支配と宗教政策」を出版。十九日、同

ン。日韓キリスト教関係史をまとめようと著作の準備を始めたが、明治以降の日本の朝鮮支配を調べる中で、宗教そのものに着目し、日本の朝鮮宗教政策などを約十二年か

け、本にまとめた。パーティーは同YMCA主催で開かれ、韓さんは「宗教は観念的であるがゆえに、国家権力に利用されやすい。過去に大きな罪を犯したという歴史的な事実をふまえ、記述した。自分を含め、宗教者の責任を促す礎として役立ててもらえれば」と話していた。

韓氏の健康と今後の活躍、そして青丘文庫の発展を願う参加者の気持ちにあふれた記念会であった。

(水野直樹記)

青丘文庫創立三十周年・韓哲曦著『日本の朝鮮支配と宗教政策』出版記念会

朝鮮支配と宗教政策』出版記念会

二月十九日、神戸YMCAで開かれた記念パーティーは、一三〇名にのぼるさまざまな分野の参加者を得て盛大に行なわれた。

姜在彦(花園大学教授)、今田稔(神戸YMCA副理事長)、辻建(日本キリスト教団兵庫教区代表)三氏の祝辞

の後、河上民雄代議士(神戸学生青年センター理事長)の発声で乾杯が行なわれた。青丘文庫創立のいきさつを話された姜氏をはじめ、それぞれの方が出版のお祝いとともに文庫が今や朝鮮史研究者のみならずキリスト者にとっても大きな財産となっており、これからは皆で文庫を守り育てていかねばならないことを強調された。

これに答えて、韓哲曦氏は、朝鮮キリスト教史・日本の宗教政策については今回の著書で一区切りをつけ、今後は日本キリスト教界の台湾・南方伝道の研究をしていきたいと抱負を語り、さらに、文庫が多くの人に利用され、皆の財産となるように運営を続けたい、と述べられた。

☆新着図書

- 慶北史学 第10輯 慶北史学会 ソウル 同社 87年 8月
 " 第11輯 " " " " 88年 8月
 韓国史研究 報 第62號 国史編纂委員会 " 同社 88年 9月
 東洋学簡報 8輯 壇国大学東洋学研究所 ソウル 同社 88年
 東洋学 第18輯 " " " " " "
 韓国独立運動史資料叢書 第2輯 独立会館 " 88年11月 P366
 한국독립운동사연구 제2집 " " " P716
 韓國學報 第53輯 金 聖哉 ソウル 一志社 88年12月
 南部軍 上・下 李 泰 " 88年 8月 P288/P250
 大韓民国史 大韓民国史編纂委員会 " 探究堂 88年 9月
 部落解放研究第65号 部落解放研究所 大阪 解放出版社 88年12月
 関西大学人権問題研究紀要17号 " 同社 88年 9月
 高麗音楽史研究 宋 芳松 ソウル 一志社 88年 6月
 韓國服飾風俗志研究 趙 孝順 " " 88年 5月
 조국 광복회규약 김 일성 평양 조선로동당출판사 88년 5월
 항일혁명투사들의 회상기(내용변) 1~4 재일보조선연총령합화 東京 87年 4月
 사회주의 정치경제학면구에서의 몇가지 리론문제 평양 87年 7月 P304
 조선근대 교육사 사회과학출판사 " 同社 88年 8月 P355
 역사과학론모집 12 과학백과사전출판사 " " 87年 1月 P344
 역사적인 4월 남북 역사 회의 " " 88年 3月 P263
 대제의 극동정책마 조선 사회과학출판사 " " 87年 10月 P336

☆研究会御案内

・在日朝鮮人運動史研究会 第110回例会

日 時 1989年 4月9日 (日) PM 2:00~

テーマ 「GHQ・日本政府と在日朝鮮人」

報告者 飛田 雄一氏

・朝鮮民族運動史研究会 第82回例会

日 時 1989年 4月16日 (日) PM 2:00~

テーマ 「済州島海女闘争(1932年)と女闘争」

報告者 藤永 才氏

・会場はいずれも青丘文庫にて

X 6月11日(日) 12

(在日へ会合の予定にしている)